

小規模多機能型居宅介護【サービス評価】 総括表

法人名	医療法人 天真会	代表者	清水 恵太	法人・事業所の特徴	小規模多機能ホームつよしは、どのスタッフが対応しても統一したケアができ、家族様、スタッフ間で情報の共有を行い、利用者様の状態、性格に合わせた「その人らしい生活」をモットーに24時間365日、利用者様、家族様のサポートができるよう努めています。
事業所名	小規模多機能ホーム つよし	管理者	松本 祐樹		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括 支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	2 人	0 人	0 人	3 人	1 人	0 人	4 人	0 人	11 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	常勤・非常勤に関わらず全職員が参加し、全員が一度に集まるのは不可能である為、会議を数回開催することで、全員が必ず一度は意見を出せる場に参加できる体制を作る。	月1度の部署会議は計画を立て実施することが出来た。また、全員が出席できるように数回に分け会議を開催し個々の意見を吸い上げるよう努力することが出来た。	達成可能かどうかは別として自己評価をすることで改善計画が進んでいくのではないかと感じた。	月に1回の部署会議の開催を、全職員が関わりを持てるように年間を通して計画していく。勤務の関係で出席できない人でも、話し合いを把握できるような環境を気付いていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	現在玄関以外の鍵は開放しているが、今後は見守りを強化すること正面玄関も開放できるようにしていく。	認知症で徘徊・離棟の危険がある利用者が正面玄関を常時開放する事は出来なかった。また、安全を優先するあまり開放しようとする事もしなかった。	短時間でも、計画を立て開放する時間をもってみてはどうかと思う。	自動ドアの交換時期でもあり、施錠しなくてもよい環境を作れるように配慮していく。ハードとソフトの両面から改善をしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	近隣の方へのアプローチを展開していく。介護相談で気軽に立ち寄れる事業所として宣伝を実施していく。	純喫茶(部屋)を常に開放し、子どもから大人まで地域の方が出入りしやすい環境を作ることが出来た。結果、大勢の人が来所してくれた。しかし、介護相談までには至らなかった。	つよしはよく知られていると思うが、相談しやすい場所になっていないと思う。相談場所にするにはどうすればいいか検討して行って欲しい。	地域の方と一体型となった催し物を設け、地域住民と交流する機会を作り、更に関わる中で介護や医療に関する相談にも乗れるような体制を気付いていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の方から情報収集を行い、参加できることから参加していく。具体的には近隣の清掃などに参加していく。また、率先して地域の清掃を行うようにしていく。	つよしさくら公園に行った時には掃除をすることを徹底して行うことが出来た。しかし、地域の方と協力して実施する部分においては独自で動いただけとなってしまった。	利用者と地域の高齢クラブとの交流を公民館を利用するなどして試みたらどうか。	高齢クラブの会長と連携を図り地域の高齢の方と交流を深める機会を設ける。
E. 運営推進会議を活かした取組み	会議の内容は、確実に全職員へ報告し把握してもらえるようにする。部署会議の日に合わせて報告をするようにする。	部署会議の際に、運営推進会議や久谷地区会議等の内容を報告することを徹底して行うことが出来た。	事業所内の取り組み現況報告などはされているが、地域での取り組みはされていないように思う。	他の事業所に出向いて運営推進会議のあり方を学ぶと共に、職員への周知徹底を心がける。実際に会議での話し合い結果等も運営推進会議で報告をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	訓練実施の際には近隣の方にも呼びかけ参加をしてもらえるような体制を築く。	春に行われた避難訓練では地域の方にも参加を呼びかけ、避難訓練、通報訓練、消火器訓練を消防士立会いの下実施することが出来た。	事業所の計画はよく出来ているが、地域との連携は出来ていないように感じる。災害等に備えて協力し合ったらいいと思う。	年2回災害・避難訓練の実施計画を立て、開催時には早めに地域の方にも参加を呼び掛けていく。